

[年度] 平成24年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] コゴミの翼葉を少なくする栽培技術

[要約] コゴミは若芽が発生する直前に被覆資材で遮光し、遮光率99%以上の光環境下で発生させることで翼葉が少なくなることがわかった。遮光ネットの「ベタ掛け」被覆による遮光方法が省力で効果的である。

[キーワード] コゴミ、翼葉、遮光資材、ベタ掛け

[担当機関名] 林業試験場 特用林産部 [連絡先] 0739-47-2468

[専門分野] 林業 [分類] 普及

[背景・ねらい]

山間地に適した新規山菜類としてコゴミの栽培が普及され、市場出荷も始まっているが、県産コゴミは翼葉が多く着生することから、市場からは東北産のような翼葉が少ない品質が求められている。そこで、被覆資材を用いた遮光条件下で若芽が発生させることで翼葉の発生に及ぼす影響を把握するとともに、効果的な遮光方法を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 市場が求める品質を得るためには99%以上の遮光率が必要であり、それ以下では効果が少ないことがわかった（表1、図1）。なお、99%以上の遮光率を確保するために、遮光率表示90%程度の遮光ネットを二重掛けに被覆する方法をとった。
2. 「もみ殻被覆」は翼葉の減少だけでなく軸の太さや重量も増加するが、若芽の発色がやや劣った。
3. 遮光ネットによる被覆では、「ベタ掛け」、「トンネル掛け」ともに翼葉を少なくするためには有効な方法であるが、「ベタ掛け」は軸の太さや重量も増加し「もみ殻被覆」と同等な効果が認められた（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 翼葉を少なくする技術によって、市場出荷を予定しているコゴミ生産者への普及が見込まれる。
2. 被覆資材は若芽が発生する直前に被覆し、収穫が終われば撤去する必要がある。
3. 「トンネル掛け」は手間が掛かるが、風雨により若芽が曲がったり傷付くなどの影響が少ない被覆方法である。

[具体的データ]

表1 遮光率の違いによるコゴミ翼葉の形状 (平成23年4月8日～19日)

試験区	被覆資材	遮光率 実測値(%)	重量 (g)	翼葉数 (対)	翼葉長 (mm)	無翼葉軸長 (cm)	軸太さ (mm)	巻厚み (mm)
A	無処理	0.0	5.1 ± 0.5	18.1 ± 2.2	19.8 ± 3.4	0.6 ± 3.4	6.0 ± 0.3	24.0 ± 1.6
B	ダイシート 8号(60～65%)	83.3	5.5 ± 0.8	11.8 ± 0.0	18.8 ± 1.9	3.7 ± 1.9	6.7 ± 0.8	21.4 ± 1.3
C	ダイシート12号(80～85%)	91.4	4.9 ± 1.3	12.9 ± 1.4	18.1 ± 1.8	2.9 ± 1.8	5.9 ± 1.0	22.6 ± 3.4
D	ダイシート10号(70～75%)	94.2	5.5 ± 1.2	10.8 ± 1.3	16.7 ± 2.3	3.5 ± 2.3	6.6 ± 0.8	22.5 ± 2.9
E	ダイシート14号(90～95%)	97.3	4.8 ± 0.8	12.7 ± 1.7	17.6 ± 2.1	3.0 ± 2.1	6.0 ± 1.0	20.6 ± 2.1
F	ダイシート12号×2重張り	99.2	4.6 ± 1.1	10.3 ± 2.6	15.1 ± 2.3	4.0 ± 2.3	6.2 ± 1.1	19.3 ± 3.5
G	ダイシート14号×2重張り	99.9	5.0 ± 0.7	9.5 ± 0.5	13.3 ± 0.8	4.6 ± 0.8	6.7 ± 0.6	19.2 ± 1.4
H	もみ殻被覆(15cm厚)	100.0	7.2 ± 1.1	5.8 ± 1.0	7.9 ± 1.0	6.0 ± 1.0	7.7 ± 0.6	17.6 ± 1.7

※各試験区の供試株数は5株とし、発生したコゴミ若芽の1番芽のみを長さ13cmで収穫した。 1株当たりの収穫本数:7.9本/株

表2 遮光ネットの被覆方法の違いによる形状 (平成23年4月11日～18日)

試験区	被覆方法 (遮光資材)	遮光率 実測値(%)	重量 (g)	翼葉数 (対)	翼葉長 (mm)	無翼葉軸長 (cm)	軸太さ (mm)	巻厚み (mm)
I	無処理	0.0	b** 4.2 ± 2.2	a** 15.2 ± 1.6	b** 19.2 ± 3.1	a** 0.5 ± 0.4	b** 5.3 ± 0.3	b* 23.6 ± 2.6
J	トンネル掛け	99.2	b** 4.7 ± 0.3	b** 9.2 ± 1.1	b** 16.3 ± 3.5	b** 4.0 ± 0.4	b** 6.8 ± 0.4	a* 20.4 ± 1.5
K	ベタ掛け	99.6	a** 6.3 ± 0.7	b** 8.9 ± 0.6	a** 13.5 ± 2.3	b** 3.6 ± 0.5	a** 8.0 ± 0.7	b** 21.3 ± 1.8

※同列異符号間で有意差あり (\*\*:1%水準で有意 \*:5%水準で有意)

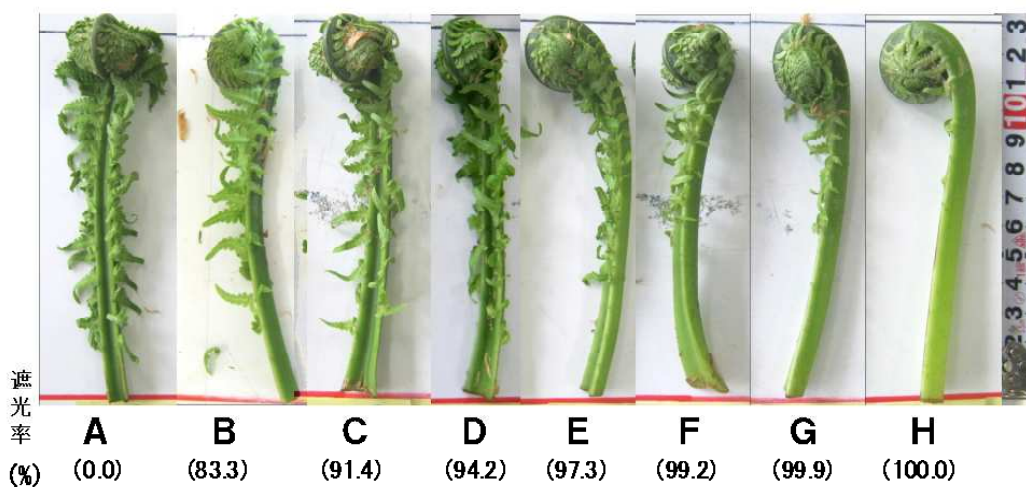


図1 遮光率・被覆方法の違いによるコゴミ翼葉の形状

[その他]

研究課題名: 山村地域の遊休地や里山を利用した山菜やきのご類等活用技術開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成20～24年

研究担当者: 坂口和昭、秦野光章

発表論文等: 栽培実証試験・コゴミの効率的な高品質栽培方法の検討 (第1報), 和林試業務報告, No.69, 2011.

H P 掲載の可否: 可